

# 令和2年度第2回千葉市水道事業運営協議会議事録

水道局水道総務課

## 1 日時

令和3年3月24日（水）午後2時00分～午後3時40分

## 2 場所

千葉市役所 千葉市議事堂棟 第2委員会室

## 3 出席者

（委員）杉谷委員、大道委員、桜井委員、青山委員、椛澤委員、岩井委員、麻生委員、  
白鳥委員、野本委員、貝阿弥委員、牧添委員、土屋委員、竹中委員、鎗田委員

（事務局）齊藤水道局長、若菜水道局次長、大木水道総務課長、山田水道事業事務所長、  
村上水道総務課長補佐、宮本水道事業事務所長補佐、  
千國水道事業事務所主査、樋口水道事業事務所主査、笠井水道総務課主査、  
中村主任技師、佐藤主事

## 4 傍聴人

0人

## 5 議題

### （1）協議事項

- ア 令和3年度千葉市水道事業会計予算について
- イ 千葉市水道事業中長期経営計画の策定について
- ウ 統合・広域化に向けた協議の進捗状況について

## 6 配付資料

- （1）資料1 令和3年度千葉市水道事業会計予算について
- （2）資料2 千葉市水道事業中長期経営計画の策定について
- （3）資料3 統合・広域化に向けた協議の進捗状況について

## 7 議事の概要

- (1) 令和3年度千葉市水道事業会計予算について、資料1により事務局から説明を行った。
- (2) 千葉市水道事業中長期経営計画の策定について、資料2により事務局から説明を行った。
- (3) 統合・広域化に向けた協議の進捗状況について、資料3により事務局から説明を行った。

### 【令和3年度千葉市水道事業会計予算についての質疑応答】

<青山委員>新型コロナウイルス感染症による影響について、お聞かせ願いたい。

<大木水道総務課長>水量について、顕著な数字が出ている。12月までの有収水量は、全体の約2割を占める業務用の水量が大きく減少し、全体の8割を占める家庭用の水量が増加しており、全体では前年度比3%ほど増加している。比較対象である令和元年度は台風の影響で、水量が落ちたため、すべてが新型コロナウイルス感染症の影響ではないが、増えているのは確かである。また、料金収入についても3%ほど増収となっている。令和3年度予算については、千葉市水道事業中長期経営計画に基づき、減収を見込んでいる。

<青山委員>更科町の配水管整備については、以前から多くの地域住民からの要望があったため、計画どおり進めていただきたい。

<椛澤委員>新型コロナウイルス感染症の影響での支払猶予などの状況をお聞かせ願いたい。

<大木水道総務課長>支払いが難しい方への対策として、徴収猶予の措置を取っており、支払いができなくても水を止めたりはしていない。当初は令和2年12月までの猶予期間としていたが、収束が見えないため、期間を延長し、今年の6月までの猶予期間としている。12月までのこの制度の利用者累計は95件で総額は130万円ほどである。新規の相談件数は減少傾向であり、昨年の夏頃までに相談いただいた方が継続している状況である。

<椛澤委員>県営水道の収益的収支について、お聞かせ願いたい。

<大木水道総務課長>県営水道については、独立採算で行っており、一般会計からの繰り入

れはなく、過去の決算では黒字も出ている。

< 梶澤委員 > 統合までは長期的な期間が必要になるが、受水費の交渉状況や11市の料金の傾向について伺いたい。

< 大木水道総務課長 > 受水費の単価交渉については進展がないが、基本料金を抑え、できる限りの経費削減をしている。その分、統合に力を入れていきたいと考えている。11市のうち市営水道があるのは7市であるが、7市のうち習志野は一般会計からの繰り入れを行っていないが、習志野市以外の6市については、一般会計から繰り入れがある。

< 野本委員 > 一般会計からの繰り入れの累計額はいくらか。また令和3年度の給水原価と供給単価はいくらか。

< 大木水道総務課長 > 平成15年度から令和3年度までの一般会計からの繰入金の累計額は237億円であり、そのうち赤字補填は118億円である。令和3年度予算ベースの給水原価は400.02円/m<sup>3</sup>、供給単価は205.26円/m<sup>3</sup>である。

< 野本委員 > 千葉市民の95%に供給している県営水道は、黒字決算が出ている状況であり、県営水道の給水原価で受水できれば、市営水道の赤字が相当解消できる。前千葉市長が千葉県知事になるが、統合までは時間がかかるため、給水原価についてはさらに熱意をもってやっていただきたい。

< 斉藤水道局長 > 野本委員のおっしゃる通り、売れば売るほど赤字が出てしまうのは市営水道の宿命であるが、県営水道からの受水費を下げるために、千葉市水道局は並々ならぬ努力をしている。1日の受水量を極力抑えるために、できる限り水を溜めるなど、料金をできる限り下げる努力をしている。千葉市水道局について、新知事となる熊谷氏は、特に問題意識をもっており、統合の話しを含め、受水費についても交渉を進めていきたい。

< 野本委員 > 森田知事と前熊谷市長は、受水費の単価の交渉を一度しか行わなかった。県市間の連携をし、新熊谷知事と新神谷市長になった今、しっかりと交渉をしていただきたい。

また、若葉区のグリーントウンに未普及地域があるが、状況はどうなっているか。

< 山田水道事業事務所長 > 未普及地域に給水するには、個人の負担が増えてしまうのが現状である。自治会長等にお話しをし、額の算出を含め、相談を行っているところである。現在、高根給水場から更科方面に、管を入れる計画がある。未普及地域であった北谷津町について、負担を低減し、給水できる可能性があるため、自治会長に挨拶に行き、自治会内で協議をお願いしている状況である。グリーントウンの未普及地域については、現在井戸を使用している状況であるが、必要があれば申請いただき、対応させていただきたいと考えている。

<土屋委員>野本委員のおっしゃった通り、過疎地域に給水するとコストが上がるが、千葉市水道局が積極的に、色々な方法を検討してほしい。また、知事と市長が変わったこのタイミングで、統合に向けてしっかりと協議をお願いしたい。

<山田水道事業事務所長>まさしく人が少ないところは給水原価が高くなってしまっているところであるが、今回の計画のような形で地元住民の方に貢献していきたい。また、土屋委員のおっしゃる通り、今後も統合に向けて頑張っていきたい。

#### 【千葉市水道事業中長期経営計画の策定についての質疑応答】

<野本委員>北谷津町の接続件数はどの程度になりそうか。

<山田水道事業事務所長>北谷津町で想定される接続件数は令和元年度時点での試算では25件である。

<大道委員>管路の耐震化について、経年的に耐震化の方法等は変わっていると思うがどのように変わっているか。

<山田水道事業事務所長>千葉市水道事業中長期経営計画では、耐震性の強い新しいものに変えていく計画である。

#### 【統合・広域化に向けた協議の進捗状況についての質疑応答】

<青山委員>新知事となる熊谷氏が掲げる県政ビジョンの中で、他県と比べて遅れている県内水道の広域化・統合にスピード感をもって取り組むとしている。県営水道と千葉市水道局についても、統合により全体の経営を効率化させ、行政コスト削減を実現するとされており、このことが、県と政令市の間での理想的な関係の実現と、県民への恩恵還元という文脈で語られている。このことにより、統合に向けた動きが進むと期待しているが、水道局としてはどう捉えているか。

<大木水道総務課長>水道基盤強化の核心は行政コストの最小化であり、京葉ブロックにおいてそれが実現する可能性が最も高いのは、本市を含むできるだけ広域での県営水道との事業統合である。行政コスト最小化が最も重要との価値観を共有できる意義は大きく、統合加速に期待している。これにより、普遍的な価値観のもとで、縦割りや個別の利益を乗り越える合意が可能だというメッセージを県内に送ることに繋がると考えている。また、今後につ

いての取り組みですが、県営水道との事業統合が水道広域化推進プランに位置付けられるよう、プラン策定の令和4年度まで県への働きかけを抜かりなく続けていく。ただし、プランを策定してから施策を実行に移すのでは、効果実現まで時間がかかってしまうので、プラン策定作業と並行して、プランに盛り込まれる施策を県営水道と千葉市水道局の間で先行実施するよう千葉県に呼びかけ、そのための検討の場を設けるよう働きかけを行う。その際、本市の利益のみにこだわることはしないで、県内の水道広域化推進によい影響を与えるのみならず、水道分野以外にも県内広域によいメッセージ発信になるよう留意しながら取り組んでいきたい。

<青山委員>水道事業における方向性や県営水道と市営水道の統合等について市民に丁寧にわかりやすく発信していただきたい。

<麻生委員>協議での千葉市水道局の要望について、千葉県はどのような反応なのか。

<大木水道総務課長>京葉ブロックで関係するのは11市と県営水道ですが、千葉県は基本的に各市と県営水道が納得できるかたちにするよう構成員の意見を丁寧に聞いているところである。スケジュールとしては、令和4年度までに水道広域化推進プランを策定し、令和3年度までに効果測定のためのシミュレーションを策定する予定である。令和2年度はシミュレーションの条件等を決めるための協議を行った。

<麻生委員>県営水道と市営水道の統合が進まなかった理由・課題について伺いたい。また、現時点で千葉県から統合への課題を示されているのか伺いたい。

<若菜水道局次長>京葉ブロックの11市ですが、県営水道のみの市が4市、千葉市のような市や習志野市のような市もある状況である。千葉県は関係11市と千葉県企業局すべての意見を取り入れて進めていきたいと考えているため、なかなか意見がまとまらず、進まなかった状況である。千葉県は各市の意見を丁寧に聞いている状況であり、意見をまとめることについてはうまく進んでいなかったが、新知事・新市長になったため、体制が変わっていくのではないかと考えている。

<斉藤水道局長>本来、千葉県は11市を取りまとめる立場であるが、今は各市の意見を聞き、全市が合意できる状態で進めていきたいと考えており、一つでも反対意見があれば進まず、丁寧に協議していくスタンスであるため、なかなか進まなかった。新知事になったため、千葉県のスタンスが変わっていくのではないかという希望を持っている状況である。

<白鳥委員>行政コストの最小化をすれば、住民の負担が減る。住民のためというのが一番重要なことだと考えており、効率化することの大切さについては、新知事も認識していると

思うが、住民のために本気で統合について協議をお願いしたい。

< 斉藤水道局長 > 新知事と新市長については、水道の広域化については同じ方向を向いているため、4月以降、スピード感を持って進んでいくと思うが、千葉市水道局も円滑かつ迅速に取り組んでいきたい。

< 椛澤委員 > 千葉市水道局が考える統合パターンや財政的な話しが出ていれば、その内容を伺いたい。

< 大木水道総務課長 > 市営水道がある7市でも状況が異なっているが、千葉市は管路がすでに繋がっていることや水道料金が同一であることから、統合をしやすいと考えている。11市の中には、県営水道の地域と印旛広域の地域両方に属している市もあるが、本市はそのような問題がない。本市において統合した場合の財政効果について試算しており、県営水道のコストを増やさず、本市だけで最低2億円以上コストを削減できると考えており、千葉県との協議の中でも伝えている。

< 桜井委員 > 統合に向けた協議をしていく中で、今後コストがかかる等のデメリットもあると思うが、水道事業をしてメリットだけでなくデメリットも含めて、しっかり情報の公開をお願いしたい。